かずさの博物誌

ケリ

～飾り気のない大型のチドリ～

文・写真／成田篤彦

2013.1.20

昨年の晩秋、広い水田地帯を真っすぐに通る小道をバイクで走っていた。

田んぼには稲刈り後の枯れた二番穂が脛（すね）の高さまで伸びていた。

そのとき、正面の上空にタカのチュウヒが現れた。田んぼを鋭い眼でながめながら、こちらに向かってきた。

とたんにパラパラと数羽のスズメが田んぼから飛び上がった。

同時にハト大の鳥が遠方の右手の田んぼから上空へ舞い上がった。五羽の群れだ。しなやかな羽ばたき、白いつばさの先端三分の一が真っ黒だ。

▲ケリ＝チドリ目チドリ科、ハト大〈2013年1月13日木更津市〉

▲チュウヒ＝草原のタカ〈2012年11月29日木更津市〉

「あ！ケリ。やはり、今年も来ていたのか？」

実は、一昨年、友人からこの周辺のたんぼにケリの群れを見たと聞いた。それで、探しまわったが見つからなかった。

二番穂の稲がケリよりも背が高い。ケリが稲の間に潜んでいたので、発見できなかったのかもしれない。

今回は、チュウヒから逃げるために飛び上がったので、見つかったのか？しかし、その日は遠くからしか撮れなかった。

今年の一月、同じ道を通った。耕された田んぼの畦（あぜ）にハト大のほっそりした鳥が二羽止まっていた。脚が長い。

「ケリだ」。

急いでバイクを降り、電柱に隠れてシャッターを切った。

カメラをもって近づく私を警戒して、すぐに「ケェ」と一声鳴いて二羽で飛び上がった。

そして、約二〇〇m先の田んぼに降りた。再び、背を低くして近づきシャッターを切った。それをもう一度繰り返したら、さすがに遠くへ飛び去った。

「追いかけまわして申し訳ない」と思った。

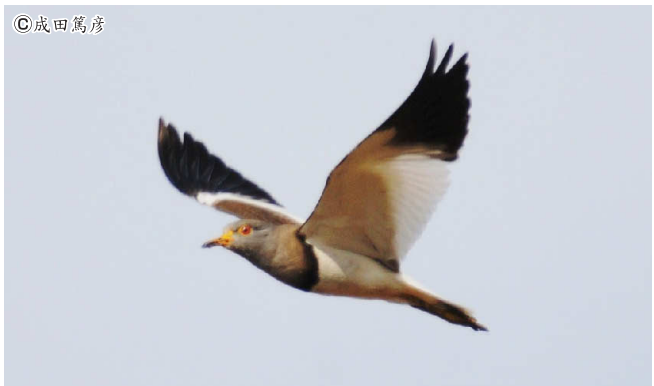
ケリは頭や背が、枯れた稲を少し濃くした色で意外に目立たない。だが、飛ぶとつばさや尾の先と胸の黒と白のコントラストが見事で、背と腹の色彩や模様が余りに違うのに驚いた。

その日は、薄曇りで、顔に当たる風は切れるように冷たかったが、広々とした田んぼの上空を飛ぶケリは、飾り気がなく美しいと感じた。

上総で最初にケリを見たのも撮影できたのも湿地や湿田であった。だから、ケリはじめじめした土地に棲むものだと思い込んでいた。しかし、彼らは湿地付近の乾いた耕地に好んで生活しているらしい。ちなみに、ケリは近似種の湿地を好むタゲリに対し、ヤマゲリとも呼ばれる。

彼らは数羽であるが、毎年この周辺の乾田にやってくるらしい。

ケリは千葉県では最重要保護生物に指定されていて、滅多に見られない。この貴重な野鳥が訪れる自然が上総にまだ、残っている。これは嬉しいことだ。



▲飛ぶケリ＝白と黒のコントラストが美しい〈2013年1月13日木更津市〉

▲群れで飛ぶケリ＝〈2012年11月29日木更津市〉

memo

ケリ

全長約三十五㎝。日本産チドリの仲間で最大。中国、モンゴリア、朝鮮などで繁殖。世界的には分布が狭い。日本では本州で繁殖。雪国で繁殖するものは冬に南に渡る。千葉県では北総で少数繁殖する。上総には冬に渡来するが少ない。千葉県最重要保護生物、水辺や耕地で昆虫やミミズを食べる。

◎写真・文章の無断転載を禁じます。